

「村山市第 6 次総合計画」に対する提言書

『 今こそ むらやまの カタチ をつくる時 』

令和 6 年 8 月

村山市議会総務文教常任委員会

はじめに

本市における最重要課題として、人口減少社会への対応と対策があげられます。人口が減っていく一方で、世帯数は減らず、若者が減る一方で、未婚や単身、高齢者の世帯は増えていく、人口減少と共に、人口構造も世帯構造もこれまで以上に変化していくことが想定されます。

また、地域の人口も変わっていきます。楯岡の中心部はベッドタウン化しながらも少しずつ人口が減少していき、一方で農村地域は、若者の流出によるさらなる高齢化の進行が予想されます。このような地域人口の変化に伴い、公共施設を含めたインフラの維持管理については、大幅な見直しによる再編が求められることになります。それと共に、地場産業においても見直しが迫られており、これからのまちづくりをこれまで以上に真剣に考える時がきております。

今後 30 年の人口構造や地域構造、そして産業構造の急速な変化や近年の気候変動の影響を踏まえ、「第 6 次村山市総合計画」の策定においては、長期的な視点から持続可能な「**むらやまのカタチ**」をつくっていただくことを願い、当委員会から提言を申し上げます。

令和 6 年 8 月 27 日

村山市議会 総務文教常任委員会

委員長 矢萩 浩次

提言Ⅰ グランドデザインの構築とそれに基づくまちづくり

村山市は、中央に最上川が流れていることで、東西よりも南北への人の移動が多い地域性で、都市機能が集中する楯岡地区と優良な農地を有する農業地区と中山間地域で構成されている。便利な都市型のまちづくりと、農村文化を大切にしたいまちづくりなど、お互いに良さを生かしたまちづくりが重要であり、今後の人口や産業等のビジョンを立てて整備を行うべきである。さらに、頻発する気象災害にも対応できるよう市全体の「グランドデザイン」を共通理解のものとし、コンパクトシティの考え方も取り入れながら、これからのまちづくりの方向性を示すことが求められる。

1. 公共施設の見直しと、変化への対応力のある行政運営

本市は、40年ほど前に建築された公共施設が多く、大規模改修が必要な時期を迎えているが、小学校の統合計画に代表されるように役割を終える施設もあるため、公共施設の整理については、先延ばしすることなく、取り組まれない。

また人口規模が縮小する中で、公共インフラを維持するためには、上下水道や消防施設など広域連携をいっそう推進し、他分野についてもその可能性を検討することが必要である。さらに、公共サービスも変化に対応していかなければならず、行政運営のあり方と人材育成について、変化に柔軟に対応できるような組織やリーダー力を高める人材育成に努めること。

2. まち全体のDXとX：Transformationへの取組みの推進

急速な技術革新が続く中、人口減少にまつわる課題を解決する糸口は、DXや、X（トランスフォーメーション）といわれる変革である。民間事業者も巻き込み、まち全体のDXやトランスフォーメーションに繋がる取組みを行政が積極的にけん引すること。

3. 異常気象による災害に強いまち整備と防災力の再強化

近年は100年に一度と言われた災害級の大雨が頻発しており、治水対策のみに頼ることはできない状況ではないかと考える。急傾斜地や、居住区域の見直し等も含めて、災害が起きることを想定した防災対策を考えること。

提言Ⅱ 稼げるまち・ひとへ

若い世代が定住するためには、仕事が重要であり市民の所得向上に取り組むべきである。すべての産業においてデジタル変革が求められており、地方から世界に向けたビジネスモデルの確立などの新時代に突入している。そのような中、本市において定住していくためにはこれまでの村山市の中心産業に加えて、新しい働き方やコンテンツ産業に代表される新分野への取り組みについて後押しをすることで「若い世代のやりたい仕事がある地方」へと成長することが求められる。

1. グローカルなまちづくり グローカル企業と人材の育成

「global（地球規模）」と「local（地域）」 地域性も考慮しつつ地球規模の視点で、考える行動する力が求められる。地域資源と地域の力を思う存分発揮し、地域にしながら世界に通じるビジネスや暮らしを提供できるよう、国際戦略の展開をサポートできる支援を行うこと。

2. ブランディング戦略とシティプロモーション

若い世代が暮らしたいと思うような、選ばれる地域となるために、むらやまの魅力のブラッシュアップや再構築をしたりすることで、地域全体の価値を戦略的に上げていくことが必要であると考ええる。

3. たくましく生きる力とシビックプライドの醸成

本市出身の子どもたちが、これからの変化の時代を逞しく生き抜くための教育として、こどもたちが学んだことを社会に出てからも生かせる「21世紀型スキル」教育に取り組まれない。また、本市の課題は、大学等への進学した後、村山市に帰ってこないという状況にあることから、他所に出ても戻りたい、住み続けたいと思えるために、市民の誇りと愛着と地域社会に貢献する意識付けが大切であると考ええる。